



山崎まさひろ

9月議会(令和4年第3回定例会)は、8月31日(水)から9月22日(木)まで23日間開かれまして。今議会では、11人の議員が一般質問を行いました。
山崎 まさひろ 議員活動の一環として、一般質問の一部を報告させていただきます。

蒲生野中央線

災害対策工事を

山崎真宏 7月3日に本町を襲った豪雨災害について。地元、蒲生野3組の団地内(蒲生野中央北線)への雨水流入により、車輪水没等が発生している。事前に車輪を避難させた方もおられる。現地を見て、蒲生野中央線の工事による事が、最大の原因の一つではないかと思ふ。鳥瞰的に見た場合、本庁舎側から国道27号側からまた、蒲生野南北線など、周辺から一か所に集まる形状になっていると考える。調査・原因分析の結果及び、対策工事としてどのような工事を行ったのか、お伺い致します。

町長 7月3日の豪雨以降に雨が降る度に皆様には大変ご心配をおかけしておりますこと、本当に申し訳なくおわび申し上げます。この豪雨は、観測開始以降40年の中で、京都府内で2番目を記録する豪雨でありました。しかし、この状況は異常気象だからと言ふことでは済まず事ができなと思っております。この団地内で起こった事を本当に真摯に受け止めて、今後の豪雨の際に考えられる様々な状況を想定した対策を取らなければならない箇所であると認識を致しております。道路整備をする以上、着手前の状況、それ以上に道路の沿路環境が向上しなければならぬと考えております。7月3日以降、数回

職員を派遣しまして、監視するよう常に指示をいたして、いるところでございます。土木建築課長 この豪雨により団地内が冠水した大きな原因は、町道蒲生野中央北線に設置されていなかった排水の要となります1メートル角のグレーチングの付いた集水桝に鉄板が被っていた事。それと、改良により蒲生野中央線の道路の高さが上がった事、この二つが相まったことが原因と考えております。この集水桝の機能の必要性に気付いておれば、この様な状況にまでは至らなかつたのかなど、考えております。対策工事としては、この集水桝の地下を流れております1.2メートル角のボックスカルバートは、この豪雨でも半分程度の水位しか上がってないということも確認しております。十分な排出機能があると確認しております。去る8月7日に行いました蒲生野3組の対象者の説明会で頂いた意見を踏まえまして、この排水桝の接続している横断排水施設の改修や、中央北線と中央線の交差点部にあります3方向から合流します排水施設の合流部分を改良するなど行いまして、降った雨がいち早く効率よく下流のボックスカルバートに流れるように排水整備をするものと合わせて、工事箇所周辺の排水が、整備した排水路に流れ道路に流出しないように仮設水路の設置など、対策工事を現在実施しているところでございます。

山崎真宏 今回実施された、対策工事で7月3日のような雨量にも対応出来るのか。現在工事中の木ノ門センターや、蒲生野中央線が国道27号側

への工事が進むと思うが、一層雨水が集まって来るのではと懸念される、どの様な計画になっているのか、お伺い致します。

町長 蒲生野中央線というのは、まちづくりにとつて極めて重要な路線だと考えておるところでございます。この改良工事は国の補助制度を活用しながら整備をいたしております。基準となる要綱などに基ついて排水施設の大きさなどを決定いたしまして整備を計画し、施工をいたしておるところでございます。ある程度の豪雨においても十分に機能するよう定められておりますけれども、7月3日の豪雨はこの基準の約1.5倍を超えるという事になります。近々よく発生する短時間で集中的に降る豪雨では一時的に道路わきにあるような枝線の排水能力が不足いたしました。道路に流れ出すことは考えられますけれども、先ほどお答えいたしました施設整備が機能いたしまして、そして、今後しっかりと機能すると思っております。ですから、今後重大な冠水に至ることはないと考えておるところでございます。しかし、今後どのような異常気象が発生するか予測はつきませんけれども、整備した排水施設がきちんと機能しているか豪雨の際には常に点検確認しなければならぬということも監視体制を強めていきたいと思います。

山崎真宏 瑞穂支所前の松山商店街で床下浸水等の被害が発生しているが、現地を見て原因の1つとして瑞穂支所前の川底の土砂堆積が考えられると思ふ。浚渫工事などを行つてはどうか、川幅を広げるのは難しいと思ふ。浚渫工事を行う考えはないか、お伺い致します。

町長 先ほどの質問で、議員指摘の箇所以外にも大変迷惑をおかけしている箇所もござります。そういったところも併せて重点的に監視体制を敷いていることを付け加えさせていただきます。

只今の質問でございますが、現在、大井川下流の1級河川高屋川の浚渫工事を京都府の府民協働型インフラ保全事業と言つたのがあります。それが活用されて順次実施はされております。

今年度、府民協働型インフラ保全事業の2次募集というのが開始されましたので、この事業を活用して京都府に提案したいと考えております。

高屋川の上流部、松山商店街にも本当に甚大な被害を今回与えました。これは非常に住民の方々も心配をされておまして、高屋川、土師川、須知川の河川改修につきま

山崎真宏 新庁舎が完成し開庁から約10ヶ月経過するが、開庁当初に消防計画、避難訓練の計画等は消防署に提出されていると思ふが、どの様な計画になっているのか、お伺い致します。
総務部長 本庁舎の消防計画でございますが、火災予防管理対策、また、自衛消防活動対策、それと震災対策、さらには防災教育及び訓練等について定めております。
山崎真宏 来庁される方、町民や職員の安全を確保する事。また、読書コーナーや、カフェの併設された「こたち」もあり、不特定多数の方が利用される施設でもある事から、早期に火災避難訓練等を実施する考えはないか、お伺い致します。

総務部長 本庁舎の消防計画では、総合訓練並びに部分訓練を、毎年4月と10月に基礎訓練を随時実施する事としておりますので、計画に沿つた訓練を今後実施して行きます。

町営バス病院難民は

山崎真宏 町営バスにて、病院難民は発生していないか、町営バスにて京丹波町病院に行くことが可能なのか、町営バス時刻表を見てみると、丹波松山線・小野鎌倉線・猪鼻川津川線・實業線・松山和知線などは、京丹波町病院に行く路線はあるが、例えば、竹野地区方面の方が京丹波町病院に行くにはどの様なルートがあるのか、病院難民は発生していないか、お伺い致します。

企画情報課長 竹野地区から京丹波町病院へは、竹野線から丹波松山線に乗り換えることで移動は可能でございますけれども、京丹波町病院着がお昼の12時半になってしまいます事から、受診の受付には間に合わない状況になっております。こういった状況から、福祉有償運送の利用や、竹野活性化委員会が母体としたカーシェアリングを運営して頂いております。通院を可能としている所でございます。
山崎真宏 須知商店街の中を通る新たなルートを追加してもらいたいとの話を聞きます。小型車バスなら商店街でもすれ違いも問題なく行えると思ふ、ルート追加を検討し対応する考えはないか、お伺い致します。
総務部長 丹波地区では、小中学校の登下校にも使用するため、中型以上のバスを配置する必要があります。須知商店街を通るルートにつきましては、車両の難航、転回が中型バスでは困難であり、現状では対応ができません。バス路線等の見直しの際には、検討を行いたいと考えております。

火災避難訓練を

裏面へ

山崎真宏 運転免許証を返納される方は、通常高齢者であり、可能な限り近くまでバスが来ることを望まれている、そのような方にも対応が必要と考えるが、町営バスのバス停留所の設置場所を検討する考えはないか、お伺い致します。

町長 今後さらに後期高齢者の数が増えることは確実にあります。それに従いまして、運転免許証を自主返納するという方も増えることが見込まれるということがありますので、買い物をはじめ、日々の生活を支える支援につぎまして、福祉と公共交通といった観点から、新たな枠組みの中でそういう手段について検討していくことが大事かと思っております。

山崎真宏 人口減少対策について、色々な対策を講じておられると思うが、一番メインと考えている対策は、具体的にどの様な取り組みを行っているのか、進捗状況をお伺い致します。

町長 人口減少というのは、町にとって大変大きな課題だと考えております。これは我が町だけではなしに全国的な傾向でもあるんですが、国が、まち・ひと・しごと創生総合戦略といったのを策定し、東京圏の一極集中の是正を目指すこととしております。それに基づいて、地方版総合戦略というものがあるんですが、町への定住を可能にする取組と、町に人を呼び込む移住促進の取組を地方版総合戦略に基づいて進めているという状況です。これらは、生計を立てるために必要な仕事づくり、あるいは住居の確保を行う中で、安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりなど、あらゆる施策を総合的に進めることが大切であります。特にその一番メインとなるということではなしに、総合的に進めるということになります。なお、移住者に選んでもらうためには、町の魅力といったものが大変大事で、現在も町の強みである、私はいつも魅力は京丹波町は食の町だということをやテーマ

にした魅力づくりを一層推し進めなければならぬと思っております。まずは、京丹波町を訪れて頂いて、京丹波町と関わり、京丹波町の魅力を肌で感じて頂きまして、京丹波町を居住として選んで頂きます様に、必要な取り組みを進めて頂きたいと考えております。

園部駅に京丹波町

町民用駐車場を

山崎真宏 人口減少対策の1つとして、町民の皆さんが本町に住み続けていただくための住民サービスとして、南丹市の園部駅周辺に京丹波町民のための駐車場を整備する考えはないか、お伺い致します。

町長 園部駅をかなりの町民の方が利用なさって、そこから通勤・通学をしておられるという実態の上に沿って、「こういう提案があったものだ」と私は理解しているんですが、ちょっと今のところ駐車場を整備する考えはないという事でありまして。

山崎真宏 JRR京都駅の新幹線ホームに本町の魅力を発信する広告を出す考えはないか、移住促進対策、企業誘致、シェアオフィスなども視野に入れ、もっともっと攻める事も必要と考えます。関東圏の人や企業九州方面の方々にも自然豊かな食のまち京丹波町をアピールする広告を出す考えはないか、お伺いいたします。その事により、ふるさと納税も増えると思います。実施されれば、パブリシティにも取り上げられ効果が大きいと考えます。

町長 6月、7月に何回か東京へ行く事がございまして、ちょっとそのときに新幹線の駅に行ったらときに私もずらりと広告が並んでいるのを見ました。自治体関係はなしに全て企業です。一緒に行っていた職員に、「これ1枚何ぼくらい、月に掛かるやろな」という話をしていたら「ろくなんですよ。」

でも、相当それは高いんじゃないですかという事で、調べたことはございませんが、多分相当な広告料を取られるだろうと思っております。ちょっと手が出ないなという感じはしました。

商工観光課長 その後に費用について調べました。そうしますと半年刻みでございまして、半年で300万円、1年通しますと600万円の経費が掛かるということが判明いたしました。費用対効果の研究が必要だということに考えております。

山崎真宏 300万円、600万円が高いと思われるか安いと思われるか。私は安いと思います。それ以上の効果が出るのではないかと。半年間、一度試してやってみてはと思います。

もっと受けよう

住民健診

山崎真宏 京丹波町住民健診は、働き盛りの方にお勧めします。日曜健診や、基本健診と、がん検診が同時に受けられる体制づくりを、等々受診を進める取り組みをされておられますが、受診率をお伺い致します。

町長 住民健診というのは、京丹波町方式と言ってもいいすばらしい事業であります。と申しますのも、無料なんです。費用要らないんです。他の市町村では、多分無料で住民健診をやっておられる市町村は、あまり見受けられないと思っております。このチャンスをやっぱり住民の皆さんも理解して、受診率を高めていただきたい。本当にこれ大事な住民健診なんです。これをぜひお願いしたいと思っております。

健康推進課長 19歳から39歳までの基本健診が98%、40歳から74歳の国保の加入者の特定健診が41.2%、75歳以上の後期高齢者健診で23.7%、全体のパーセンテージにしますと26.1%です。コロナ前の令和元年度が30.1%、令和2年度が19.8%でしたので、やや8割程度コロナ前に回復してきたというように認識しております。

山崎真宏 住民健診には、19歳から受ける成人歯科健診について、健康日本21の中にも、歯・口腔の健康に関する文言があり、国においても、国民皆歯科健診を「骨太の方針」に盛り込まれ実施する方向でとの報道がある。歯科健診（口腔衛生）の重要性が再認識されていると考える。医療費の削減にも繋がります。予防医学の観点から歯科についても受診率を上げる事が必要であると考えています。成人歯科健診の受診率について、お伺い致します。

健康推進課長 成人歯科健診の受診率につきましては、令和3年度で、実数は2399名の31%、22年度で推移をしております。

山崎真宏 まだまだ本場に少ないと思えます。京丹波町独自の無料で行っているという事ですので、町民の皆さんもぜひ受診していただきますように、「この場をお借りして訴えておきます。色々な場面で健診を勧めることに取り組んで頂きますよう、また、国が勧める中でも、国に先駆けたモデル事業になっているとも思います。取り組みができれば京丹波町の魅力にもなると思えます。

子ども園

みんな怪我なく元気

山崎真宏 認定子ども園での、子どもがケガをする事故は発生してないか、全国の保育所・幼稚園、認定子ども園で、子どもが怪我をする事故が昨年は、2,347件あったとの報道があった。本町の認定子ども園では、その様なことが起きていないか、お伺い致します。

町長 新聞報道にございまして、2,347件は、内閣府に重大事故として報告され、取り

まとめられたものでありまして、治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故や死亡事故となります。町内でも園、3園につきましては、今の所これに当てはまる重大事故というのは1件も発生はいたしておりません。子どもの行動というのは本場に予測が難しいものがございまして、どれだけ注意をしても、全体的な怪我を防ぐのは大変難しい状況にあります。引き続き日頃から「イヤリとする」と、「ハットする」というようなこと、そういう事故につきましては起きないように、イヤリ・ハット事象が起きないように施設内の点検を徹底して、子どもの様子をつかりと観察をして、状況に応じて医療機関を受診するなど、必要な措置を迅速に取っていきたくと考えております。

以上、9月議会に於ける私の質問の一部を、議員活動の一環として報告させて頂きました。京丹波町をアピールし、人口減少を食い止める、町民の皆様のためになる政策を提案し続ける事を力を注いでまいります。

※これから先11月ごろから、通常ならインフルエンザが流行する季節になりますが、昨年は幸いにもインフルエンザの流行はありませんでした。これはコロナウイルス感染の対策として、手指衛生やマスクの着用、また3密回避等、海外からの人の移動制限と感染対策がインフルエンザの感染予防についても効果があったと言われている。本年に入ってから北半球ではインフルエンザの患者が例年以上多く目立ったという報道もあります。コロナ感染もまだまだ多く見られる中、これからも普段通り、うがい・手洗いや、手指消毒を徹底して頂き、マスクの着用、3密回避に心がけて下さい。

※町に対する思いなど、何かお気づきの点がございましたら、「ご連絡ください。微力ながら少しでも改善できるよう一緒に取り組んでまいります。」